

大学教育における山間地域を対象とした 学外実習に関する学習空間環境調査報告

— 奈良県吉野郡黒滝村を事例として —

小松原 尚

1. 調査の目的と実施体制

大学教育の場で想定されている学外実習とは、学生のための教育活動に資するためのものである。地域志向教育のために用意された学外における体験の場もこの観点から、量的な側面のみならず、質的にも充実を図らなければならない。本研究にあってはそのための地域(企業や自治体)と大学との相互協力関係に着目しながら、そこにおける大学と地域による学生に対する教育活動と環境提供を通じた「相互貢献」に関して考察し、その活動の教育的側面を明らかにするために調査活動を実施した。そして、その成果を学生の教育の場と教材の提供に地域の関係者の関わりがどう結実するのかを考える素材にしたい。

i) 調査日：2016年8月8日

ii) 調査実施主体：奈良県立大学 地域創造学部 小松原研究室

iii) 参加者

引率教員：小松原尚、山部洋幸

調査補助員：堤茉莉亜、速水勇介、橋本尚子、堀部七彩、米本康一郎

(全員1年次生)

2. 調査の方法と取りまとめ

研究においては、学びの「体験者」としての位置づけから、学生を調査活動の補助員として活用した。今回は1年次生に依頼した。その理由は、初年次を含む学士教育課程前期におけるキャリア形成指導の重要性は文部科学省の指摘を待つまでもなく、本学にあってもその意義は認識されているからである。そして、学外実習は、観察や聞き取りの活動を通してその場における人々の暮らしぶりや働き方にふれることにもなるのであり、その意味において、キャリア教育の場にもなるのである。さらに、学生を調査補助として活用することにより、学生自らの目線から対象地での学習活動のための環境調査や集合から目的地まで、その往復途上も含む調査活動を行えるのである。

調査活動は予め学生に提示した学習課題に沿って現地取材をし、その内容を踏まえ、報告表を作成するものである。その構成は、後に示す表の通りであり、大きくは3つの部分から成る。構成の第1の部分は、黒滝村の作成になる研修資料「黒滝村について」を利用しての事前学習を踏まえて、辻内幸二村長との質疑応答を中心に学生個人でそれぞれまとめたものである。表1-1から表1-3までは、その内容を表したものである。第2の部分は、集合から解散までの移動中における観察調査と安全に学習課題をこなすための装備確認である。第2-1から表2-3までがまとめにあたる。第3部分は事業所や団体での聞き取りに基づく調査結果である。表3-1から表3-4に整理しておいた。そしてさらに、これらの調査を終えたのちに、このような見分が調査にあたった学生諸君の大学における学修とどうかかわるかを考察し、各自の考えをまとめてある。表4がそれである。

3. 対象地域の位置づけ

この調査は学習空間環境に関することであるから、学修空間と学習空間の違いに関して確認しておこう。まず前者の学修空間は、カリキュラムポリシーに基づき、大学キャンパス内外に設置・配置をみる施設等で構成される。学生と教職員からなる構成員の学びと働き場である。

例えば、小松原（2005）において、学修空間に関する考察を進め、学内の

教育研究関連の施設設備の充実とともに、大学における学生への福利厚生面の充実度への関心も高まっており、それらを供給するための人的、物的整備の必要性を論じた。大学における教育サービスの供給をより効果的、能率的に行なうためには、こうした研究が必要不可欠である。そしてこの認識にたった現状分析も必要になっているとの見解を提示した。

一方、後者の学習空間は、教科教育上の必要性に基づき教員が設定する教育活動の場であると考え。そのためには自治体や事業所、諸団体たらの協力を得ることは不可欠である。この点では、学習空間の量的な確保のみならず、その質的な側面からの点検を踏まえての検討が必要となる。

黒滝村における今回の調査活動も学習空間の範疇に含まれる。2015年2月に続いての訪問であったが、学外実習を実施する場にあっては、以前にも増して好意的に対応して下さった。辻内幸二村長をはじめ村役場の皆さん、また村内の事業所や団体のスタッフの方々から聞き取り調査に対するご協力を賜った。その意味で、黒滝村での活動は質的に充実したものであった。その意味から黒滝村は、我々の学習空間として位置付いていると考えられる。

文献

- 小松原尚(2005)：大学に関する立地論的考察, (奈良県立大学)『研究季報』16-2：13-22.
- 小松原尚(2015)：奈良県黒滝村における学生による学習環境調査, (奈良県立大学)『研究季報』26-1：1-22.

この調査活動には、文部科学省大学改革推進等補助金(地(知)の拠点整備事業)「地域連携と学習コモンズシステムによる地域人材の育成と地域再生」の一部を使用した。

調査報告

[1] 黒滝村作成の研修資料「黒滝村について」の資料利用した質疑応答

表1-1 黒滝村の概要、文化財の概要、文化財の調査・整備・活用状況、主な指定文化財一覧

質問番号	質問事項	学生	取材結果
1	民俗資料館の見所	A	写真だけでなく実物がある。
		B	黒滝村の歴史がたくさん詰まっているところ。
		C	樽や、それを造る用具など、実物を実際に間近で見ることができるため、質感を直に感じることができるところ。
		D	樽丸づくりの道具を近くで見ることができ、触ることもできる。
		E	本物の樽丸が近くで見られること。
2	黒滝村の人だけが知っているこの村の良いところは何か。	A	村の人たちみんなが家族のよう。お互いに名前も知っている。
		B	自然の中で学べて、子どもを地域で育てることが出来るところ。
		C	人が少なく、交通面では不便などところがあるが、村民同士の繋がりが強く、深いところ
		D	地域住民同士のつながりが非常に強いところ。村人はみんな顔馴染みである。
		E	子供を育てるのに経済面に村が援助してくれるところ。
3	①一番人気のある文化財はなにか。②人口流出が増える中で、黒滝村の移住支援はあるか。また、それはどんなものか。③いまの黒滝村の人々は自分の村のことについて、どう思っているか。	A	①役場旧庁舎。②家を提供。給食費などの教育に関わる費用の無料化など。中高には国と別に村から奨学金が出る。③子供の数を増やしていくべき。
		B	①旧役場庁舎が人気である。②村ではいろんな事が無償化されている。さらに、外からの移住に関しては毎月お金を支給する制度もある。③とても安全、安心で村人同士のなかが非常に良い。
		C	②外部からひとを集めるため、移民に対して、住居の提供や学費の無償化などを村全体で行っている。
		D	①鳳閣寺が人気の文化財である。②移住してきてくれた方には財政的な支援を考えている(家賃補助等)。③何も無い村だが、それが逆に人とのつながりを深めるので良いと思う人が多い。
		E	①旧役場庁舎が一番目立っているように感じられた。②村が主体となって支援し、全面的に受け入れている。③黒滝村は人はいいのだが、移住者に対してかたいところがある。
4	文化財や世界遺産があることは、村民の村に対する誇りや愛の度合いに影響しているか。	A	村のみんなで大切にしていこうという愛が影響している。
		B	小学校で村の歴史を教えるぐらい、自分たちの村に誇りを持っており、それは文化財や世界遺産があるからこそその歴史である。
		C	古くからの伝統が認められたり、新たな名所ができることで、黒滝の魅力が増え、村民の村に対する誇りや愛も大きくなった。

大学教育における山間地域を対象とした学外実習に関する学習空間環境調査報告

		D	少なからず村の財産として誇りを持っている。
		E	道の駅でお話をしてくださった方が、世界遺産に登録されてから観光客が増えたと嬉しそうにおっしゃっていたので、誇りを持っているように感じた。また旧役場庁舎の資料館の展示が思ってた以上に丁寧だったため、村の愛を感じた。
5	①買い物は不便なくできるのか。 ②民族資料館を作ってから旧役場庁舎に訪れる人は増えたのか。	A	① 車がないと不便。②増えた。
		B	①必要なものは取り寄せているため、不便ではない。②少しずつ増えた。
		C	①普段の生活で買い物は、車で吉野や樺原など大きなショッピングセンターのあるところまで行くことが多いため、車が無いと買い物はとても不便である。
		D	①今年（2016年）の六月、道の駅にコンビニエンスストアができ、買い物の不便さは少し解消されたが、不便には違いない。
		E	①移動中黒滝村を見る限り、目立つような商店はなく、充分に買い物は出来ないと考える。②調査不足。わかりません。私を感じた限り、常に開放している様子ではなかったので、訪れる人はすくないだろうと予想する。

表1-2 産業と振興、人口の概要

質問番号	質問事項	学生	取材結果
6	①平成10から15年間で園児、児童、生徒数が急激に減っているのはなぜか。②第三次産業に従事する人が増えているが、主にどんな職種なのか。（観光業が多いのか）	A	②観光業に最近力は注いでいる。
		B	①過疎化が進んだから。
		C	①児童の保護者の子供を集団のなかで学習させたいという傾向が高まったため、子供の数が減っている。②第三次産業のなかでは、やはり、観光業が多く、特産の蒟蒻を食べることができる、道の駅は黒滝の名物となっている
		D	①新しく子どもを産むような若者がどんどん黒滝村から出ていってしまうために減っている。②第三次産業に従事する人の職業として多いのは公務員（役場）である。
		E	①学校の生徒が少ないことで狭い世界で育て欲しくないという親が多く、他の大人数の学校へ通わせていることの悪循環。②やはり観光業が多い。こんにやくの里のように若くない人でも、働いている。
7	人口が減り、高齢化が進む今、産業を盛り上げるためにどのようにこの問題に向き合っていこうと考えておられるか。	A	産業を盛り上げるためにとにかく子供の数を増やそうとしている。そのために、様々な特典などを作っている。
		B	黒滝村の良さを伝えて、山で仕事をして、黒滝に住んでもらうことを目指す。
		C	黒滝村では高齢化に健康で元気に過ごしてもらい、お年寄りから村を盛り上げるために、ポイント手帳を配布し、お年寄りの行動範囲を広げ、健康を促進している。

調査報告

		D	今年（2016年）は「観光再生」を目標として産業を盛り上げようとしている。村のことを知ってもらうためのイベントを企画している。
		E	村長さんは基幹産業である林業に若者が従事し、村を支えてくれたらいいとおっしゃっていた。
8	①どの季節が、観光客が多いか。 ②自慢の観光スポット、お土産は何か。 ③人口減少に対して、何か取り組みは行っているか。	A	①夏（キャンプなど）。②道の駅、吉野杉、こんにゃく。③子供を増やすための対策
		B	①夏が一番観光客が多い。②自慢の観光スポットは旧役場庁舎などの文化遺産である。お土産はこんにゃくである。③人口減少に対しては、村人が外に出ないよう、村の制度を充実させている。例えば、高校生の通学費補助であったり、無料のコミュニティバスである。
		C	②黒滝ではレジャー施設が充実しており、川や山などを目当てに多くの若い世代が足を運んでおり、自慢の観光スポットとなっている。また、③人口減少に対し、移民を増やすために、住居の提供や学費の無償化などを行っている
		D	①夏は川下りや、バーベキュー等をする機会があり、観光客が多い。②お土産として、地酒やこんにゃくが有名である。③空き家を貸す取り組みを検討している。
		E	①夏休みの時期。②自然とふれあえる黒滝森物語村である。お土産はこんにゃくや、くろたんグッズを推している。
9	若者はどの産業で一番働いているか。	A	役場に一番多い。
		B	—
		C	村では、役場などの公務員の職に就く若者が圧倒的に多い。
		D	役場で働いている人が非常に多い。
		E	5人の若い移住者は林業に従事している。
10	村を存続させるための施策案はあるのか。	A	地域で子供を育てる。子供の教育の見直し。高齢者の健康対策。
		B	まずは今いるお年寄りに長生きしてもらう策として、黒滝村ポイント手帳を作って配る。ポイントを貯めるために歩くことで、健康に繋がるのである。お年寄りが元気になることで、若者も活気づく。
		C	村の外から人を黒滝に住まわせようと移民に対して住居の提供や学費の無償化などを行っている。
		D	人口流出を止めるために子どもたちに手厚い支援を行っている。
		E	未来を担う子供達の支援を欠かさないこと。

表1-3 園児・児童・生徒数、幼稚園の沿革、小学校の沿革、中学校の沿革

質問番号	質問事項	学生	取材結果
11	黒滝村の子供の中学卒業後の進路、高校はどこへ通うのか。	A	隣町の高校など。
		B	高校は畝傍や高田など遠くの学校に通う子ども

大学教育における山間地域を対象とした学外実習に関する学習空間環境調査報告

			<p>も多い。</p> <p>C 高校は吉野や樫原など近隣の地域の高校に通うが、そのまま、大学に進学したり、他地域で就職したりするため、若者が村に戻ってこないという課題もある。</p> <p>D 黒滝村には高校がないため、高校に進む人は村外に行く必要がある。就職したり、専門学校に行く人もいる。</p> <p>E 黒滝村に高校や大学はないので、必然的に村から出て行くことになる。しかし、戻ってきてくれるように、村から奨学金を出す制度がある。</p>
12	黒滝村の子供たちにこの村について何を教えたいですか。	<p>A 吉野杉のすばらしさと村のすばらしさ。村をどれだけ好きかということを大切にしている。</p> <p>B まずは、この黒滝村の良さを知ってもらいたい、地域愛というものを知ってほしい。</p> <p>C 黒滝の自然などよいところを教えた上で、黒滝の過疎化や高齢化の問題を教え、若い世代に黒滝を盛り上げていってほしい。</p> <p>D 黒滝村の文化財や世界遺産はどのようなものなのか。「樽丸」について。</p> <p>E 特に村の歴史を教えることを重視している。</p>	
13	①生徒数が少なくなっており、逆にそのことが強みとなっていることはなにか。②小中一貫というスタイルは将来の町を支える人々がとても仲良くなれて良いのではないか。③学校として、地域に貢献していることはなにか。	<p>A ①生徒と先生の距離が近いので、学力が伸びやすい。②よいが同じ学年の数が少なすぎるため村を出る子が多い。③フィールドワークなどをして子供たちを地域に出し、村に関心を持ってもらう。</p> <p>B ①一人の子を多くの大人で見ることが出来る。②悪い部分だけでなく、仲良くなれるなど、良い部分もたくさんある。③学校としての活気が元気を与えてくれる。</p> <p>C ①少人数体制の授業ができるため、奈良県内でもトップクラスの学力を誇る。また、②全校生徒も少ないため、学年の壁を越えて共に学習する場が多いため仲も良いそう</p> <p>D 生徒に対する支援が手厚くできるということである。例として、昼食費の無償化や修学旅行費の無償化が挙げられる。学校に行くことで黒滝村について深く学ぶことが出来る。</p> <p>E ①先生一人当たりの生徒の数が少ないので、進学実績が良いこと。②逆にその世界しか知らないことになるというデメリットもある。③子供と高齢者を交流させている。</p>	
14	人数が少ないことは、子供や親にいい意味でも悪い意味でも影響はあるのか。	<p>A 影響は様々である。親にとって少人数は子供が社会に出てから少し心配。</p> <p>B 人数が少ないからどうではなく、少ないところにはそれなりに良いところも、悪いところもある。</p> <p>C 人数が少ないため、一人の生徒に教師が向き合う時間が増え、奈良県内でもトップクラスの学力がついている</p>	

調査報告

		D	親密な友人関係を作りやすいが、たくさんの人と接する事は難しい。
		E	いい意味として、上記にも述べたように成績があがること。悪い意味としては、人間関係が狭くなること。
15	①園児や生徒数が0になると休園や閉校になるのか。②子どもたちは楽しい学校生活を送れているのか。③黒滝村だからこそ行うことができる授業等はあるのか。	A	①校舎が合併される。②人それぞれだが、比較的不満はあると思う。③地域に出て行うフィールドワーク。
		B	①子どもは楽しんで学校生活をおくれている。②黒滝村について、授業で教えている。
		C	やはり、③黒滝には自然が多く、授業の中で、校外学習として自然に触れる機会も多く、黒滝特有の授業もなされている
		D	①閉校となってしまった学校も存在する。②子どもたちは黒滝村の大自然に囲まれながら命のサイクルを間近で見ることができる。③授業の中で黒滝村について学んでいる。
		E	①0にならないよう、村が全面的に移住者や子供の支援を行っている。②子供達に直接聞き取りをしていないので、わからない。③普段の授業から実際に外に出て、村の歴史を勉強している。

[2] 集合から解散までの移動中における観察調査

表2-1 景観資源調査

【活動事項】

徒歩移動中や車窓から眺められる景観で、興味のあった地点とその内容を幾つでも記す。

学生	観察内容
A	長屋が所々ある。箸の店が多い。家が大きい。
B	信号がない。しかし、高い景色がきれい。村の特徴として材木店が多いと感じた。
C	意外と家の軒数が多い。ひとつひとつの家が大きい。ラーメン屋さんが道路の途中にぼつんと一軒だけあった。
D	トトロに出てきそうな家があった。(外壁が全て植物に覆われていた) あづま箸商店や割箸のトーチ等、割箸を売る店が多く、吉野杉の余りをうまく使っているのだろうと思った。オレンジの電気ではないトンネル(最近開通した)があり、珍しく感じた。
E	下市駅にコンビニエンスストアが1つあっただけで、黒滝村への道の間で一つもチェーン店がないことに驚いた。そもそもチェーン店が出店するつもりがないのか、チェーン店があればまちの雰囲気を壊してしまうため住民が反対しているのか、どちらなのだろうと疑問に思った。

表2-2 危険発見調査

【活動事項】

交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のためのバスでの移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容をいくつでも記す。

学生	観察内容
A	歩道がないところが多い。山の方は特に街頭がない。カーブが多い。山の方にも家がぼつぼつあるが、バス停があまり見当たらない。
B	駅から黒滝村への道のりは、くねくね道が続くので車酔いに注意する。
C	駅前の道は安定しているが、黒滝に近づくにつれ、曲がり角が多く、道がくねくねとしていた。また信号が少ない。

大学教育における山間地域を対象とした学外実習に関する学習空間環境調査報告

D	下市口駅近くの住宅街の道幅はとても狭く、事故につながりやすく感じた。黒滝村に行くまでの山道は急なカーブが多いため、酔いに注意しなければならない。山道は一車線のため、対向車が来ると車が谷に転落する危険性がある。
E	下市口駅からすぐの道はとても危険な道だ。多くに商店や住宅が並んでいるにもかかわらず、道が狭く歩道がないからだ。また、ほかに道に比べると交通量が多かったため、車で通るときは歩行者の飛び出しに気を付けなければならない。もちろん自分が歩行者である場合も、できるだけ道路にはみ出さないように注意しなければならない。

表2-3 移動時学習環境調査

【活動事項】

学習の場として、利用する場合に

(1) 学生が予め準備しておくべきこと

学生	準備内容
A	道を調べる。その土地の特徴を調べる。
B	酔い止め薬、水の他、熱中症対策の水、そして村で聞いた話を記録しておくための紙とペンは必須。さらにバインダーがあれば便利。
C	車内では、道が不安定なため、揺れるためメモなどを取りづらいので、バインダーなどメモをしやすいものを持っていく。
D	黒滝村に関する基礎知識、すぐれた体調、黒滝村の職員の方に失礼のないような言葉遣い
E	大きく体が左右に揺れるくらいクランクがある山道だったため、乗り物に弱い人は調査に集中するため酔い止めを準備しておくべきだ。

(2) 移動中の装備としてあったらよいと考えられるもの

学生	準備内容
A	シートベルト、筆記用具、ボード
B	念のための酔い止め薬を持っておく。
C	バインダーなどメモを取りやすくするもの
D	バインダー、メモ帳、筆記用具、酔い止め、水筒(水分)
E	メモを取る際、車の中では文字は書きづらいためバインダーなどがあると便利だ。

(3) 移動中に安全にくつろぐための留意点

学生	準備内容
A	車やバスでの移動ならば、カーブが多いのでスピードを出しすぎないように余裕をもって行動する。
B	酔いやすい人は事前に酔い止め薬を飲んでおく。
C	窓からは山や川が見えるので景色を見て移動しながら自然を楽しめる。
D	シートベルトを必ず着用する。勝手に森林等、危険な場所に入っていかないようにする。
E	1でも記したように山道は特に事故の発生しやすい危険な道であるため、当たり前ではあるが安全のためのシートベルト着用は必須である。

【3】事業所・団体での聞きとり調査

表3-1 道の駅吉野路黒滝の現地体験観察 (1) 現地理解促進度

【活動事項】 現地に関してどのような興味深い知見が得られたか。

学生	観察内容
A	①店が木造で香りが良い。②道の駅の課題としては、人が多い休日などは、車が駐車場を出て道路まで並ぶ。近くに民営家があるのでその邪魔にならないための配慮をもっとしなければならぬ。また、道の駅から歩いて行ける所に浅い川があるため、家族連れが道の駅の駐車場に

調査報告

	車を置き水遊びをする。そうすると、お昼などを持参するため店で買物をしてもらえない。さらになかなか帰らないので駐車場が空かず、経営の回転が悪くなる。このようなお客さんをどのように対応していくかなどの課題がある。
B	山の上にもかかわらず、商品の値段があまり高くない。地酒が多い。いのししを使ったメニューがたくさんある。しかし村にはイノシシよりもシカのほうが多いと村の人がおっしゃっていた。ゆるキャラが印象的であった。外国人観光客も来ていた。
C	大阪と連携を結んでおり、店内にビリケン像が置いてある。いのししフライなどイノシシ関連のものが多くあり、全面的に宣伝している。
D	山の上にもかかわらず、食べ物類の値段が高くない。地酒の種類が豊富である。「くろたん」というイノシシの姿をしたゆるキャラを前端的に推している。しかし、最近ではイノシシをあまり見かけず、鹿をよく見かけるとのこと。イノシシをご当地グルメとして活用（カツやコロッケなど）。海外からの観光客、とりわけ中国人観光客が多かった。最近出来たコンビニには一日一便の配送が来る。地域住民のニーズに合わせた商品を麓のスーパーから仕入れることも多い。
E	売店の店員によると、この夏休みが最も観光客が多い時期だ。観光バスや車に乗って家族で来る人をはじめ、バイクツーリングで訪れる人も多い。そのため幅広い年齢層の観光客が道の駅を訪れている。

表3-1 道の駅吉野路黒滝の現地体験観察 (2) ホスピタリティ度

【活動事項】 記念館の展示方法や案内は適切だったか。

学生	観察内容
A	店の名前に「ビリケン」と入っており、それについての説明書きが店の奥にあった、木造のビリケンの横に貼られていた。→店の奥にまでいかなければ、説明がない。そのため、店の奥にまで入っていかない限り分からない。この展示に関しては、奥に置かずこの像と説明書きは店の前に置いておくとなおいいと感じた。もし、店の奥に置くことで店に入ってもらいたい狙いとするならば、店の入り口からでもビリケン像があることが分かるようにするといいのではないかと感じた。例えば、もう少し高い位置に像を置く。置いている場所の入り口から見える高さを何かで飾り、目立たせる。など
B	虫とりかごがおかれており、地域の特徴を捉えているように感じた。さらに他の商品も一般のコンビニと同じくらい充実しているように感じた。従業員の人は、自分たちの質問に対して一つ一つ丁寧に答えてくださった。
C	ビリケン像はかなり大きく、インパクトが大きい。なので、奥ではなく、入り口の近くに置く方がよいのではないかと思った。イノシシをモチーフとしたゆるキャラがつくられており、そのゆるキャラの Web 投票など、SNS を使った宣伝をしているということを通り紙などで掲示しており、目に留まりやすかった。
D	主に地酒や「くろたん」グッズといった観光客向けの品揃えだったが、中央には黒滝村や五條市で採れた野菜等も売っており、地元の人にも買ってもらえるような品揃えだった。
E	お土産が並べてある棚が木で作られていて黒滝村らしく適切だった。また、その木材の香りがほのかに感じられ非常に良い印象を持った。木のお土産が奥に目立っていなかったのも、せっかくなので入り口に付近に置いた方がよい。内装は木で統一され雰囲気があって魅力的だったのに、店内に流れている曲が普通のポップミュージックでがっかりした。店内のテーマにあった音楽を流すべきだと感じた。

表3-1 道の駅吉野路黒滝の現地体験観察 (3) 資料適合度

【活動事項】 館内で提供される資料やチラシなどは現地の状況に見合ったものだったか。

学生	観察内容
A	店の前に置かれているチラシなどは、黒滝村でのイベントやキャンプ場の案内などが多かった。宿についてのチラシもあり、黒滝村が初めての人でも分かりやすい案内がされていた。
B	店内のチラシは現地の特徴にあった、森林のことなどについてが多いように感じた。
C	チラシを各自自由に取ってくださいというスペースがあったが、店の外の端という少し、分かり

大学教育における山間地域を対象とした学外実習に関する学習空間環境調査報告

	ずらいところにあった。フェスが開催されるなどといった宣伝のチラシは売店の入り口に貼り出されていたため、見やすかった。
D	イノシシ弁当というものがメニューにあり、黒滝村の獣害対策として処分したイノシシを有効活用していると感じた。
E	奈良に関するチラシを中心に近畿の観光地のチラシも置いていて見合っていた。また、配置もきれいに整頓され見やすいものだった。

表3-2 民俗資料館現地体験観察 (1) 現地理解促進度

【活動事項】 現地に関してどのような興味深い知見が得られたか。

学生	観察内容
A	色の悪い木は、味噌樽に使われる。一番外側の木は、割り箸などに使われている。吉野杉は、県外の過ぎに比べて年輪がまっすぐであり、長い年月が経っても品質が落ちにくい。丸太を結ぶものとして使用される竹は若いと折れやすい。樽丸は昭和30年ごろまで発達した。
B	黒滝村ではスギ、ヒノキの植林が行われている。樽丸は奈良県で作られていたという事。いろんな道具があり、用途に応じて使い分けられている。村の中で集められた道具が展示されているという事。
C	吉野杉の年輪は美しく、内側に赤みがあり、キレイに割れるという特徴がある。竹輪で樽の形作りをする。酒樽は高級品で、吉野杉の酒樽に使われない他の部分は割り箸や醤油樽へまわされる。
D	年輪の通った吉野の杉は簡単に割れるため、加工しやすい。樽丸づくりにはそれぞれの過程で専用の道具(ソトゼン、ウチゼン等)を用いる。樽丸をくくるものは竹である。仕上げにはオオツチという道具を用いて、樽丸を叩き、細かな調整を行う。この作業だけで1時間以上かかる場合もある。
E	丸太にも切り方があることを知った。丸太の中心に向かって切ると木目が平行になる「柁目」と、向きを変えずに一方に切ると山型や谷型の木目の模様になる「板目」がある。樽丸はクレを隙間なくきっちりはめ込み美しく仕上げられていたが、この樽丸を樽職人はどう解体するのか疑問に思った。職員さんも知らないらしく、この疑問が解決されていない。

表3-2 民俗資料館現地体験観察 (2) ホスピタリティー度

【活動事項】 資料館の展示方法や案内は適切だったか。

学生	観察内容
A	【良い面】 人の模型や使用されていた道具などが展示されており、小さい子供でも見て楽しむことができる。頂いた資料は、樽丸や吉野杉について書かれており分かりやすかった。 【悪い面】 何に使用されていたかなどの細かい説明書きがないので、展示物を流し見するだけで終わってしまうのももったいない。
B	人形を使って器具の使い方が分かりやすく説明されていたのが良かった。 映画を見てからの、資料館を見せていただいたので、頭に入りやすかった。
C	最初に吉野杉にまつわるビデオを見たあとに、実際に、実物に触れたり、道具を観察できた。ビデオを事前に見ることで、鑑賞する際の理解が深まったと思った。また、資料館内では、主にパネルを使った説明がなされており、写真も付属していたので理解しやすかった。実際に触れることができたり、実物を間近で見れたので、質感などを直で感じる事ができた。
D	館内の展示品を見る前に樽丸についてのDVDを鑑賞したことで、展示物を見たときに実際にこの作業ではこの道具を使っていたのか、と物事を深く考える事ができた。温度管理、湿度管理が行き届いており、展示物の老朽化を防いでいた。実際に触れられる展示物が多く、映像だけでは分からない重量や質感も分かるのでよかった。
E	ビデオに関して、出演していたおじいさんの声が聞き取りづらく何を言っているかわからない箇所が多々あった。道具や材料の名前だけでなく、セリフにもテロップを入れたほうが良い。

表3-2 民俗資料館現地体験観察 (3) 資料適合度

調査報告

【活動事項】館内で提供される資料やチラシなどは現地の状況に見合ったものだったか。

学生	観察内容
A	道具などのミニチュアのキーホルダー、本物の吉野杉で作られた樽丸（ミニチュア）、実際の物と同じぐらいリアルでミニチュアのは女性客の目を引くと思う。
B	家にあれば節電になるのではないかと感じた、鉄製のアイロンがほしいと感じた。ビデオを見て想像していたよりも実際は大きいものが多かった。
C	吉野杉はすぐく木のよい香りがするので、吉野杉でつくられた小物など。
D	ソトゼン、ウチゼン、吉野杉のあまった木材
E	クレのストラップがよいと考える。ストラップなら年齢性別問わずどこにでも付けやすい。また、シンプルなデザインにし、様々なサイズを比較的低価格で用意すれば、一つだけでなくたくさん買っていってくれるのではないだろうか。

表3-3 黒滝蒟蒻よもぎの里現地体験観察 (1) 現地理解促進度

【活動事項】現地に関してどのような興味深い知見が得られたか。

学生	観察内容
A	目玉商品として販売している蒟蒻がその場で作られている～その蒟蒻について～ 【作り方】①蒟蒻芋をミキサーで潰し、それを30分くらい手で混ぜる。②固まってきたら型に流し茹でる。③混ぜてると、水酸化により白っぽい色から灰色に変化する。 【特徴】水は、黒滝村の山奥の方から引かれている水道水を使用。手でこねるため市販のものに比べて蒟蒻に隙間ができ、味が付きやすい。蒟蒻芋は地元で作っているを使用するが、足りないときは広島から購入している。蒟蒻を刺している箸は吉野杉を使用している。普通の安い箸だと、臭いが蒟蒻につく。
B	コンニャクはほとんど手作業で作られている。コンニャクは水で保管されている。さらに混ぜていくうちに、色が濃く変わっていく。コンニャクづくりは女性の方だけでしている。20年前、家で作っていたコンニャクが道の駅が出来たのをきっかけに販売するとそれが人気になった。コンニャクは村でとれたものもあれば、広島のほうからも取り入れている。手でコンニャクをむむから、味が染みてとても美味しい。
C	販売所の裏で、蒟蒻をつくり、出来たてをお客さんに提供している。串に刺さった蒟蒻を初めて行ったのは、黒滝村。蒟蒻の製造、販売を行っているのは、平均年齢は75歳の女性だけであり、20年以上も続いている。また、村が奨励する蒟蒻畑があるが、売上げる量の方が多いため、それだけではまかなえない。足りないぶんは、広島からの蒟蒻を使用している。
D	こんにゃく芋を砕く以外の作業は全て手作業で行っている。地元の女性だけで作っている。よもぎの里ができるまでは各家庭でこんにゃくを作るだけだった。今ではこんにゃく芋が足りないくらい人気である。手揉みをしているため、中に空気が入り、味が染み込みやすい。従業員の平均年齢は75歳のため、次世代に引き継ぐ必要があるだろう。ダシが創業当時からずっと変わっていない。
E	説明をしてくれた方の「ここで食べるのが一番、だからネット販売はしていない」という言葉が心に響いた。ネット販売をすれば、今よりもっと繁盛し利益が得られることを期待出来るにもかかわらず、黒滝村で食べることが美味しいという職員さんのコンニャクと村に対する愛はすごいと感じた。黒滝村で食べることは、この村の雰囲気と一緒に20年前から続く作り手の愛を感じながらコンニャクを食べることだ。

表3-3 黒滝蒟蒻よもぎの里現地体験観察 (2) ホスピタリティー度

【活動事項】資料館の展示方法や案内は適切だったか。

学生	観察内容
A	蒟蒻の作り方をどこの蒟蒻芋か、どこの水を使用しているか、などの質問に快く答えてくださった。硬すぎず、分かりやすく説明して下さるので入ってきやすい(聞きやすい)。
B	よもぎの里を創設した時からずっといる人もおり、手つきがとてもよく、説明も非常に分かりやすかった。

大学教育における山間地域を対象とした学外実習に関する学習空間環境調査報告

C	大半の人は、インタビューや説明には慣れていないようだったが、こちらから積極的に話しかければ、丁寧に答えて下さった。また説明に習熟していた方もおり、その方は、蒟蒻づくりの歴史など、細かい面についても丁寧に答えて下さり、自ら進んで蒟蒻のことを説明して下さった。
D	創業以来ずっとこんにやくを作っていたりしゃる方がおり、よもぎの里ができる前は各家庭でこんにやくを作っていたことや、黒滝村のこんにやく特有の歯ごたえと味の染みやすさの秘訣を教えてくださいました。
E	1. にも記したように、説明して下さった方の村とコンニャクに対する愛はもちろん、お話ししていない方の分の愛も感じる事ができた説明だった。とても分かりやすかったし聞いていて楽しかった。

表3-3 黒滝蒟蒻よもぎの里現地体験観察 (3) 資料適合度

【活動事項】資料館の展示品で記念品や土産物として購入したいものはどんなものか。

学生	観察内容
A	資料はなし。蒟蒻に刺さっているお箸が吉野杉でできていた。香りもよく、普通の割り箸と違い、とげがなかった。
B	こんにやくが非常に美味しかった。こんにやくの棒は吉野杉で出来ているというこだわりがすごいと思った。
C	実際に作業をしている場での聞き取り調査と見学をしたあとに、出来立ての蒟蒻を食べることができ、実際の作業行程を見て、手間暇をかけたものだということを実感しながら食べることが出来て、なにも知らずに食べるより、多くのことを感じながら食べることができた。
D	こんにやくが刺さっていた割り箸は吉野杉で出来ており、余った杉を有効活用していた。
E	串こんにやくに使われていた割り箸は黒滝村の木材で作ったものを使用していた。説明して下さった方によると、黒滝村の割り箸は香りがよく、柾目がまっすぐで口当たりがよい。また、こんにやくににおい移りがしにくいそうだ。串こんにやくは材料をはじめ、作る人やそこに込められている伝統まですべてが黒滝村産である。

表3-4 黒滝村森林組合現地体験観察 (1) 現地理解促進度

【活動事項】現地に関してどのような興味深い知見が得られたか。

学生	観察内容
A	所有者(林家)1000名のうち339名が職員。主に森林販売や管理を行っている。1ヘクタール以下は職員になれないといった決まりがある。大手林家が7~8名一理事となる。取りまとめるのが難しい。山守制度。地元の者が管理する。良い面→所有者が把握できる。悪い面→管理をしない人がいる。木を取り出すのにヘリコプターを使用しなければいけないのでお金がかかる。
B	339名の組合員、1000名の所有者がいること。たくさん所有している人は理事になる。森林の場合は農地改革のようなものがなかったため、とても大きい林家の人々が今でも存在する。村にいない人の森林を管理する山守制度がとられている。
C	林の所有者は1000人以上で、現在339人が組合員になっている。小さなところは組合から除外され、大きな林下は理事になっている。また、山守管理制度のお陰で、所有者の把握や、図面が出来上がるという利点があり、流木を買う権利も含まれ、この制度が吉野林業を支えてきたという。けれども、高齢化や価格の低迷に伴い、管理を怠る山守もいるということか、問題視されている。またヘリ代が高価で、採算がとれないという。現在では、割り箸産業が効果をあげており、こうやまきは木の節が抜けないことから、風呂桶に適する。
D	現在、1000名程が森林を所有している。うち、400名が森林組合員である。この職場では山林の管理等を行っている。非常に大きな林家が理事として7~8名いる。村にいない所有者の森を地元民が管理する吉野郡独自の山守制度がある。山の90%くらいに山守がいるが、ちゃんと管理しない山守も多い。問題点として、間伐材の使用法を見出すことが挙げられていた。
E	山の土地には江戸時代の「農地改革」のようなものがなく、今でも大きな土地を持っている人が組合の中でも権力を持っている。

調査報告

表3-4 黒滝村森林組合現地体験観察 (2) ホスピタリティー度

【活動事項】資料館の展示方法や案内は適切だったか。

学生	観察内容
A	質問したことすべて答えてくださった。しかし、内容が難しく、理解できないことが多々あった。例えば、会話の中で出てきた間伐材がどのようなものかわからない。会話の中の単語が分からず、会話の内容が入ってこないなど。
B	山に関する知識が多く、一つの質問に対して一つ以上の答えが返ってきて、非常に勉強になった。例えば、森林組合は希望者は全員なれると思っていたが、1ヘクタール以下であれば組合員になれない事は初めて知った。
C	インタビューなどにはあまり慣れていないようだったが、こちらがする質問にできる限り丁寧に答えて下さっていた。林業には、土地の管理だけでなく、ヘリ代などといった金銭面での苦労があるなどといった、林業を続けていくなかでの困難について、多く聞くことができた。良い側面、悪い側面のどちらも聞くことができ、2つの視点から林業について学ぶことができた。
D	樽と桶の違いまで熟知していた。江戸時代の吉野の林業について等幅広い知識があった。
E	林業の現状を中心に説明していただき、戦後に植えた木が価格低迷していることや、木材の需要が減っていること知ることができた。しかし、専門的な単語やそもそもの林業の在り方が分からず、お話を理解することができなかった。予習不足だった。また、仕事内容だけでなくこの組合が組合員とどのような関わりを持っているか、今回の調査で一番重要な「人」に焦点を当てた質問をするべきだった。

表3-4 黒滝村森林組合現地体験観察 (3) 資料適合度

【活動事項】資料館の展示品で記念品や土産物として購入したいものはどんなものか。

学生	観察内容
A	吉野杉を使用した椅子は、まだ試作品中。一つ、何十万もする。木の部分は、サラサラで吉野杉を圧縮して作られている。無駄な加工はされていない。木そのものの良さが活かされている
B	現地の特徴にマッチしているが、内容が少し難しいように感じた。吉野材を使った椅子はとても高級であり、なかなか庶民には手の届かないものとおっしゃっていた。しかし、まだサンプル段階のものがいくつか並べられていた。
C	インタビューに使われた部屋では実際に吉野材を使った椅子に座ることができた。加工をしていないのにも関わらず、触り心地は滑らかで柔らかかった。まだ、一般には販売されておらず、試作品の段階ではあるが、とても座り心地がよく、商品化に期待したい。
D	吉野材を使った椅子は今まで座った椅子の中で最も体にフィットしたように感じた。初めはやすりであの手触りを作り出していると思っていたが、やすりもかけずにあの手触りだということを知り、驚愕した。実際に買うとなれば初任給でも足りないくらいの値段だと言われたが、それでも納得する品質だった。これからもっと市場に出して、世界中の人に知ってもらいたい椅子だ。
E	黒滝村の杉で作られた椅子は、市役所で見たととき何よりも一番目にいった。座り心地がよく、全身が椅子にフィットするデザインだ。また、やすりを使っていないのにもかかわらずとても滑らかな触り心地で、黒滝村の吉野杉の品質良さを感じた。

表4 学習関連観察 (1) 勉学関連性

【活動事項】今回の活動で得られた知見は、今までのあなたの勉学とどのように関連するか。

学生	観察内容
A	本や参考書などの活字と向き合って学ぶのとは違い、多くの方に聞き取りをしながら頭の中でまとめるといった早く考える力の必要性を感じた。実際活動に出て、見て聞いてを自ら行うことで、相手に話を振るコミュニケーション力や観察力、今までの知識も含め様々な視点にたつことができた。

大学教育における山間地域を対象とした学外実習に関する学習空間環境調査報告

B	地域創造を目指し勉強するなかで、少子高齢化、人口現象の先端の走る黒滝村の現状や、それに対する取組を知れて、非常に勉強になった。
C	地域創造と関係のある、地域の復興や観光業といったことは勿論、地域創造学概論でも学んだ林業についても関係のあることが体験できた。特産物の蒟蒻や、イノシシをつかった村興しという点でも、地域復興と関係のあることを深く知ることができた。
D	現代社会の勉強で学んだ問題（人口減少や国産木材が売れない等）を実際に抱えていたのが黒滝村であった。農業と社会で学んだ第六次産業などについてももっと詳しく聞いておけばよかったと思う。
E	地域創造学概論や観光学概論で、地方の過疎化を観光というツールを使って解決していこうという傾向があるということを知った。成功例しか知らなかったため、観光事業を行えば簡単に過疎化は改善できるものだと思っていた。しかし、実際に過疎化が進んでいる黒滝村に実際に訪れたことによって、過疎化は非常に複雑な問題だということだ。役場でのお話を聞いて考えさせられた。この方は高校生の際は黒滝村を離れていた。「ずっと住んでいたら出たくなる」という言葉にドキッとした。私は田舎暮らしをしたことがないので具体的にはわからないが、この言葉には人間関係をはじめたくさんの意味が含まれているのではないかと感じる。狭い世界のしがらみから逃げようと地方の若者は都会に出てくる。これを防ぐためいくらか観光が盛り上がり経済的に反映したとしても、過疎化は解決できない。その土地に生まれた人がずっとここに住んでいきたいと思えるようにするにはどうすればいいのだろうか。

表4 学習関連観察（2）ひらめきときめき性

【活動事項】今回の活動の体験から、どのような発見があったか。ドキドキするようなことがあったか。

学生	観察内容
A	問題点などを見つけた際に、解決策の提案やその先を考えることができた。自分の生活圏を離れた場所の人々に話を聞くことで新しい考え方やその場所を感じる。その場所から見た周りの場所について知ることができた。また、自分の住む場所であたり前のことがその場所ではあたり前でなかったりするため、面白い見方ができた。自然の豊かさや大きさには黒滝に着く前からドキドキした。
B	黒滝村は素晴らしい街であること。一番素敵だと思ったのは村の人々がとても良い人ばかりだということ。とても優しく村人を互いに知り、大切にしており、将来はこの町に住みたいと思った。家の鍵をかけないというのは、人間味があふれているように感じた。
C	黒滝村では様々な政策で村のそとから人を集めようとしているということを知った。例えば、児童の小学校や中学校の学費を無償にしたり、引っ越してきた人のために村が住居を提供するなど、移り住みたい村作りをしていることを知った。奈良の大学に通いながら、そのような情報を知らなかった。けれども、そのような魅力的な情報を知り、綺麗な自然のある黒滝村の良さ発見することができた。
D	普段はたくさん建物の囲まれた土地で生活しているので、大自然に囲まれた黒滝村というものが同じ奈良県内にあるという発見ができた。コンビニが出来ただけでグランドオープンという幕があったのがとても新鮮だった。
E	パンフレットやチラシのクオリティーに驚いた。デザイン性があったとても見やすいデザインだった。人を呼ぶにはまず広告からだと思うのですごいと感じた。若者向けの少し個性的なパンフレットを作ってみても面白いのではないかな。

表4 学習関連観察（3）勉強発展性

【活動事項】今回の活動で得られた知識、経験を今後のあなた自身の勉学にどう活かすか。

学生	観察内容
A	今回の活動で得た、見方や考え方をこれからの活動でも活かしながら、その調査対象の土地の良さや問題点などを再確認していきたい。そして、これから学ぶ観光やコミュニティなどにどのように影響を与えるのかや何が好まれるのかなどを考えていきたい。
B	この知識を忘れないようにしっかりと文面としていくことが大切である。フィールドワークや

調査報告

	<p>社会に出てからも今回の知識や経験を参考にしながら取り組む。小さいから悪いのではなく、小さいからこそ良い部分がたくさんあることを頭に入れておく。</p>
C	<p>今回は初のフィールドワークで分からないことも多かった。対人でインタビューをしていくなかで、どう聞けばいいのか、聞いている間、どのようにすれば、メモを聞き逃すことなく取れるのかなどインタビューのコツや技術的な面で学べたことが多かったように思える。2年次からは、フィールドワークの機会が増えると思うので、今回、ここをもう少しこうすればよかったなどと思ったことを改善できるように、今回の経験を来年のフィールドワークへ活かしていきたい。</p>
D	<p>大自然の中にある村でも大都市でも地域住民のニーズに合ったまちづくりをすることは大切であり、黒滝村は地域住民のニーズに特化したまちづくりを行っていると感じた。村のトップとの距離がここまで近いのは全国的に見てもなかなかないと思う。都市でも黒滝村のように地域住民とその地のトップの人が意見を交流できるようにはどのようにしていけばいいかといった問題を今後、考えていきたいと感じた。</p>
E	<p>初めてのフィールドワークだったので、FWのやり方や流れが分かった。①のように座学だけでは正しい理解ができない場合もある。実際に訪れることによって座学で学んだことが初めて知識として定着するだろう。そのためにも、現地に行く前にしっかりその土地について予習してFWに臨むことが大切だと感じた。</p>